

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1491900112
法人名	有限会社ハピネス
事業所名	小規模多機能ホームゆりの花 南武
訪問調査日	2014年12月16日
評価確定日	2015年1月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900112	事業の開始年月日	平成23年4月1日	
		指定年月日	平成23年4月1日	
法人名	有限会社ハピネス			
事業所名	小規模多機能ホームゆりの花 南武			
所在地	(238-0313) 神奈川県横須賀市武4-17-20			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆりの花の理念である「ゆっくり、一緒に楽しむ、共に築く」に向け、穏やかで毎日明るい家庭的な生活の場を目指しています。常に食事作りや買い物、掃除、お洗濯など、利用者様と一緒に楽しく過ごせる様日々取り組んでいます。また、レクリエーション、外出(散歩など)は毎日個別に一人一人のニーズに合わせた行事や地域の方々との交流も持てるような行事も開業時より取り入れ、現在も続けています。ボランティアや近所の住人の面会やレクリエーション来所も増えて、楽しみや活気を持ちながらの生活を続けていけるよう取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年12月16日	評価機関 評価決定日	平成27年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①グループホームゆりの花・南武は、有限会社ハピネスの経営です。有限会社ハピネスは認知症対応型共同生活介護及び小規模多機能型居宅介護の運営を主要経営としており、神奈川県下で4事業所(内1事業所は小規模多機能型居宅介護)、東京都下で3事業所(内1事業所:同)を展開しています。事業経営の一環として、この地に「小規模多機能ホームゆりの花・南武」を平成23年に開設し、小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。事業所は京急線YRP野比駅からNTT通信研究所方面行き京急バスに乗車して約20分くらいで、周辺は丘陵住宅地として集合住宅や戸建て住宅が混在し、一部に農地も残っている地域に位置しています。

②事業所の理念は「ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く」という法人の理念を共有理解すると共に、事業所の管理者の意思の下、ユニット単位で“地域”を重視した理念と行動目標も策定しています。理念に基づいた介護活動を支えるべく管理者は、職員の質の向上を通じて活動の充実を図ること及び、積極的な情報発信を通じて地域との交流を密にすること、を推進して尽力しています。

③職員の研修については、横須賀市のグループホーム協議会が主催する研修会他、事業所内外の研修の機会を積極的に活用しています。研修の際には、研修費用と旅費を負担し、手当の支給等の優遇措置を講じ、積極的に参加を促しています。更に法人として、キャリアパス制度を確立する等、人事施策面の充実を図っています。また日常的には、カンファレンス等の場に時間は短時間でも、計画に沿った研修・指導の機会を設けて研鑽しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能ホームゆりの花 南武
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念としている「ゆっくり、一緒に楽しむ、共に築く」を基本として各ユニットで介護理念、行動目標を作っている。職員全体で毎日のミーティングやカンファレンスで理念を基本とした日常のケアやケアプラン作成について話し合い実践につなげている。	法人の理念を共有理解し、これを実践に結びつけるべく年に1度、ユニット単位で理念と行動目標を策定して全職員に徹底し、実践しています。一方管理者としては、理念に基づいた介護活動を支えるべく、職員の質の向上を通じて活動の充実を図ること及び、積極的な情報発信を通じ、「地域との交流を密にすること」を推進しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、保育園など地域の行事にご利用者と一緒に参加したり、夏祭り、餅つき大会、バザーなどホームの行事に地域の方々を招待している。日常では近所のボランティアにより活け花、お茶会、ダンス、演奏会などで交流を深めている。	町内会に加入し、その行事（運動会、盆踊り、バザーへの出品など）に参加すると共に、事業所が主催する行事（夏祭り、敬老会、餅つき大会など）に招いたり、相互の交流を図っています。また、ボランティアの受入れ（生け花、楽器演奏、お茶会など）も積極的です。何よりも、隣接する保育園との交流が活発で、園児が歌や踊りの発表会の予行演習に来訪し、お礼に手作りマフラーをお返ししたり、また、境界のフェンス越しに日常的な会話を楽しむ等、お互いが交流を楽しんでいます。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議やホームでのイベント時に町内会、民市委員、ご家族の相談や質問に応じている。また、イベントや日常時にもボランティアや外来者など利用者との会話時を設けている。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、町内会長、民生委員や地域に関連している方々のご家族、ご利用者本人を交えて運営推進会議を開催している。ホームでのイベントや日常の状況等の報告や話し合いし、受けた意見や要望などは事業所での会議で報告しサービス向上につながるよう努めている。	2か月に1回開催する運営推進会議は、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員をはじめ、ご家族、利用者本人が出席しています。年に1回は横須賀市の担当者も加わり、事業所の運営状況報告を行う等、活発に双方向の意見交換がなされ、事業所の運営に活かされています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会時には市町村担当者に利用者の暮らしやニーズ、ケア対応を伝えたり、市で実施されている食中毒、認知症、災害の研修にも参加し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	横須賀市グループホーム協議会が主催する研修会に参加し、情報共有を図っています。また、横須賀市主催の身体拘束、食中毒、認知症、災害などに関する研修会にも必ず参加して、協力関係を築くべく取り組んでいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の職員全体で外部のセミナー以外にも、オリエンテーション、日ごろのミーティングやカンファレンス、内部研修で、身体拘束をしないケアの徹底をしている。ご利用者の自由な生活が支援出来るよう居室や玄関などは鍵はかけていない。	横須賀市主催の身体拘束に関する研修に参加すると共に、事業所内でも勉強会を開いて、職員の共通認識を図っています。困難な事例に直面した際も、時間をかけて職員間で意見交換をし、玄関の鍵をかけずにすむ方法、拘束しない方法を考え、実践しています。尚、併設する小規模多機能型居宅介護事業所との行き来も自由にしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で全職員の虐待防止の意識を高めるために、虐待防止のマニュアルを作成しカンファレンスや内部研修に参加する場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の責任者は研修に参加し、制度について勉強している。活用し支援出来るよう関係者と話し合い出来る体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族の要望に出来る限りの誠意を持って答える。その上で相互の理解に努めている。契約書と重要事項説明書は見学時と入居時に必ず確認している。また、介護保険料の改定のあった時はその度お知らせし同意書をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を設けている他にも、運営推進会議など、来訪時(面会)、ホームからのお便りなど、いつでも意見や要望を言ってもらえるよう機会は作っている。出された意見などは会議で話し合い反映に努めている。	年1回の家族会には6～7割のご家族が出席し、意見・要望を聞き取る場として有効に機能しています。また、運営推進会議、来訪時の個別面談などを通じて意見・要望を聞き取り、事業所の運営に反映しています。利用者とは日々の介護活動の中で、意見、要望を汲み取っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、研修の他に職員の個別の面談を定期的に設け、意見や提案を聞く機会を作っている。日頃のコミュニケーションにも心がけ親睦会も増やしている。	毎月開催されるカンファレンスの5日前までに、職員全員から「次回のカンファレンスのためのアンケート」の提出を求め、事前に集約した上で、提示された意見・提案について議論しています。また、年度初めには個別の面談を通じて、職員からの意見・要望を聞き、前年度の反省を踏まえた目標設定を行っています。更に、法人の費用負担で親睦会もユニットごとに年2回開催し、インフォーマルなコミュニケーションも大切にしています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、給与や勤務日数、目標、やりがいなど話を聞ける場を持っている。資格取得、要望など支援制度や研修制度を設け、職場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量を高める事につながるよう、積極的に研修に参加している。また、研修発表が多く持てるよう、カンファレンスやミーティングでの機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会や小規模連携に常に参加し、ネットワークづくりや勉強会に積極的に活動している。イベント、研修など多く設け、同業者との交流を深める機会を作っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心して頂ける事を最優先とし、早く対応できるように困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けることに時間をかけ信頼関係づくりに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り自宅を訪問し、面談を行っている。家族の思いや意向を受け止め、どんな意見も発言出来る雰囲気作りを心がけている。ケアプラン更新時には必ず確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に見極めるため、本人や家族と時間をかけて接している。事業所の機能、環境、利用者のニーズを考慮した上で必要なサービスを提供できるか判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の発言などで介護者側の気づきや教わるが多く、職員と利用者という関係以前に人と人との付き合いという観点を持ち、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望をしっかりと受け止め、一緒に考え、共に支え合っている。また、日々の様子が分かる様にお便りを送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後に希薄になりがちな関係性を考慮し、利用者と家族が接する機会や行事を提案している。また、家族にも協力を得て家族の行事へ行ける機会を作っている。	ご家族と相談しつつ、利用者個人別の行事計画を作成し、馴染みの人、馴染の場所と関係が継続できるよう計画に織り込み、外出などの支援をしています。また、利用者をご家族が接する機会や行事を提案したり、家族内の行事（結婚式や法事等）へ行ける機会も作って支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルなく関わられるよう、楽しく参加出来るエクリエーション、イベントを考えて行っている。利用者の孤立が見られないようにいつでもスタッフが間に入り、見守りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事のお誘いはさせて頂いている。いつでも、利用者家族が来て頂けるよう、お便りを出したり、声をかけさせて頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や自己決定を大事に最優先と捉えている。ほとんど時間に関係なく、お茶、入浴、外出等は本人の希望に合わせて過ごさせて頂いている。	日常の介護活動の中で、利用者本人の意向、自己決定を最優先に考え、職員全員が利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。意向などが伝わり難い人には、表情やしぐさから汲み取る努力をしています。その結果を基に、起床時間、日中の過ごし方、入浴の日時など、本人の意向や希望に合わせて支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回、面接時は自宅へ訪問し、生活環境や生活歴を伺い、サービス内容に結びつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個性を大切に、合った暮らしを工夫出来るように、本人の生活リズムや身体機能、心理状態を総合的に把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員参加のカンファレンスでの意見交換や、日頃の関わりによるアセスメントと家族からの要望を重視し、介護計画を作成している。また、本人、家族にもしっかりと介護計画を見て頂きながら、最も適切と思われる介護計画を作成し支援している。	3か月ごとの定期アセスメント、6か月ごとの定期計画見直しを基本としていますが、モニタリングは毎月行い、必要都度の計画見直しも重要視しています。介護計画の策定に当たっては、職員全員によるカンファレンスをベースに、利用者本人、そのご家族のご意見を伺いながら、より適切な計画を作成しています。医療面では看護師を通じ、医師との連携も図っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の細かい内容も記録に残し職員全員が情報の共有やケアの工夫が活かせるように日誌に目を通してしている。また毎日のミーティング、カンファレンスでもケアの実践、結果、気づきなどの意見を出し合い、確認しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、ニーズが変化してもその度、家族や本人と相談した上で出来る限りの支援内容で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事参加や散歩、買い物に出かけたりして暮らしの中に楽しみを見つけられるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と相談して往診医を決定している。1か月に2回の定期往診があり、その他本人や家族の希望で皮膚科や歯科の往診も可能、受診内容、処方薬の説明もホームから説明させて頂いている。	利用者本人とご家族に相談して、往診医を決めています。内科医は1か月に2回の往診があり、希望により歯科医は月1回の往診、皮膚科医は必要な都度往診または、同行して通院しています。看護師は毎週、巡回して健康管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の巡回日には必ず利用者の身体状態、食事や水分の摂取量の変化事項など報告している。利用者のバイタルチェックや、あれば医療処置、処置後の対応など指示も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り面会に行き、不安の軽減に努めている。病院関係者とは必ずその度、本人の情報(食事、睡眠、体調)を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについて、入所時に取り決め、その後も1年に1度の確認を書面で行っている。それ以外でも、家族の意向を出来る限り検討し、本人や家族と共に方針の決定、対応を続けていく。	入居契約時に“重度化した場合における対応に関わる指針”を提示及び説明を行い、利用者、利用者代理人の同意を得ています。 看取りを実施する場合は、利用者の意向、医療体制の確認、ご家族等からの相談に対する対応及び援助、緩和ケアなどの状況を踏まえ、ターミナルケアの介護計画書を作成しています。過去3年間で4回の看取りを経験しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部や内部の研修等に常勤から順番に参加し、カンファレンスなどで内容を報告し情報を共有している。社内の緊急時のマニュアルも作成し、職員全員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内で防災委員会を3か月に1回開催し、災害対策の関連事項を話し合っている。事業所では防災委員会を設け、災害時の避難、通報、消火訓練を行っている。年に1回地域家族会では消防署も交え防災訓練、AEDの講習会も行っている。	法人内に防災委員会があり、事業所もユニット単位に防災委員を定め、3ヶ月に1回の委員会に参画しています。事業所の防災訓練は月に1回各種状況を想定して行い、年に1度は消防署、近隣地域を交えて実施し、AEDの講習会も行っています。災害時に備えた1週間分の水、食料の備蓄のほか、常備薬、ロウソク、懐中電灯なども備えています。これらの備えについて近隣にも広報し、災害時の際の利用を促すと共に、炊き出しの訓練なども行って、地域との協力体制を築いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、援助時や誘導時の声かけなど配慮して対応に努めている。また、常に自己決定しやすい言葉かけを心かけ、信頼関係づくりや本人らしさも損なわないよう努めている。	“親しみ”とのバランスにも配慮しつつ、一人ひとりの人格を尊重するべく、見極めを行い、日常の介護活動を行っています。 援助時、誘導時などの不適切な言動は、職員同士がその場で注意し合い、対応しています。個人情報保護の研修は、年に1回実施しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重し、どんな時も本人が安心して自己決定して頂けるよう、ゆっくりと時間をかけて説明や会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の考えや行動を優先して過ごして頂くため、一人一人のペースを見守り、大切にしている。本人の希望に添って職員も一緒に行動を共に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来所し、本人の希望に添って整髪している。居室の担当を決め、日常や外出時の服装を本人と相談して、意向に添った身だしなみ、おしゃれの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは毎日利用と相談して決めたり、食材を買い物や庭で採れた野菜と一緒に準備したり、一人ひとりの好物を交互に作り、食事の楽しみを共有している。	全てのメニューが自主メニューで、利用者と相談して決めています。食材の調達も独自に行い、利用者と一緒に買い物に行っています。食事の準備、後片付けにも利用者が参画しています。また、菜園で収穫した野菜を食材に使うことが、利用者の楽しみにもなっています。毎月用意されている行事食、誕生日食など、変化をもたせることにも心掛けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のミーティング、カンファレンスで個々の状態などの情報交換をし、職員は必ず毎日、毎食時の食事と水分の摂取量の記録をしている。工夫として個々に応じて好物や時間帯で摂取しやすくなるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、義歯の清掃やうがい、ブラッシングなど、本人に合わせた口腔ケアを一緒に行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日のミーティング、カンファレンスで排泄パターンや習慣の把握に努め、配慮した声かけや安全な見守りと誘導で支援に努めている。	トイレでの排泄支援を原則に、自立に向けた支援を行っています。そのために個々の排泄パターン、排泄サイクルをしっかり把握し、また行動から汲み取り、適切に声掛けをするよう努めています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の希望も入れ、主治医と相談して便秘への改善に取り組んでいる。他にも本人と相談しながら運動や飲食物の摂取への工夫と働きかけに努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前は必ずバイタルチェックと本人の意思を聞き確認してから一緒に準備を行う。脱衣、移動など介助が必要な時は十分に配慮し安全に安心して入浴が出来るよう職員は心がけ、楽しい話題作りに努めている。	最低、週に2回の入浴を基本として、利用者の希望により、毎日でも入浴できるよう対応しています。また、入浴前にはバイタルチェックと本人の意向を確認して、一緒に準備を行っています。リフト浴は併設する小規模多機能型居宅介護事業所の浴室に備えられ、利用することができます。また、菖蒲湯、柚子湯など季節的な工夫で支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望でいつでも自由に休憩をしたり眠れるように居室内やベットを清掃し、整えている。安楽を考え、居室の温度調整、敷、掛シーツの清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は必ず毎日定期的に服薬の確認をしている。用法、用量については主治医に必ず確認し、症状の変化時には記録と報告の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活状況や会話から、本人の喜び事、楽しみ事などを見出し、イベントや年間行事に取り入れ、計画や実行につなげている。時には隣の小規模や他のフロアのレクリエーションに参加して頂くこともある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って外食、買い物、散歩など職員は戸外に出かけられるよう支援している。また、家族と相談しながら予定を計画し支援に努めている。	利用者は、法人全体で行う家族と一緒に、バスツアー、クリスマス会への参加を楽しみにしています。日常的には天気が良ければ毎日、近辺を周回する散歩に出かけます。また、希望に沿って、外食や買い物にも外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し、希望者には家族の協力のもと所持している。また、自由に買い物もできるよう定期で近所の大型スーパーに出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って日時の制限なく電話や手紙のやりとりを出来るよう、家族や知人に相談しながら協力を得ている。自身の携帯電話も持って自由に家族へ連絡している利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居心地良く過ごせるよう、共用の空間は清掃している。安全に自由に移動できるよう動線を作り、穏やかな音楽をかけている。	共用空間は、天窗、大きな窓など、自然採光をふんだんに取り入れた構造で、利用者が安全に移動できる動線を考え、また、24時間換気設備、床暖房なども取り入れ、穏やかなBGMが流れ、明るく、安全、衛生的で、居心地の良い空間づくりがなされています。リビングルームの飾り付けは（調査時）大きなクリスマスツリーを中心にクリスマス飾り一色で、季節感、生活感を取り込む工夫をしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にも窓際やベランダに椅子やテーブル、ソファなどを設置し一人でも複数でもくつろぎお茶を飲める場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っている馴染みの家具や道具を本人の希望通りに居室に設置し、本人が安心して居心地良く使い、過ごせるよう、家族と一緒に工夫している。	居室の備付はシンプルで、エアコンとクローゼットが配備され、基本的には利用者が馴染み、使い慣れた家具、備品を持ち込む仕様になっています。ダンス、鏡台、仏壇等と共に、個々の趣味の作品、家族や活動時の写真を飾るなど、一人ひとりの生活が溢れた居室づくりになっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安心して安全に移動できるよう、廊下やトイレ、玄関などに手すりや足元ランプをつけている。窮屈な感覚にならないよう透明なドアをつけ、先が見渡せる適度な空間も作っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能ホーム
ゆりの花 南武

作成日

平成26年12月16日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者様のご家族との信頼関係をより深めていく	ホームのレクリエーション、イベントの他にも、研修会や親睦会を設け参加して頂く。	ご家族の希望する研修や家族会の内容を聞き、信頼関係を深める時間を増やす。	1年
2		災害、防災に対する意欲や活気を高める	地域の他にも周辺、エリア内の施設と交流を深めていく	防災マップ作成。研修会など積極的に他施設を把握し交流を持つ。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	小規模多機能ホームゆりの花 南武
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念としている「ゆっくり、一緒に楽しむ、共に築く」を基本として各ユニットで介護理念、行動目標を作っている。職員全体で毎日のミーティングやカンファレンスで理念を基本とした日常のケアやケアプラン作成について話し合い実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、保育園など地域の行事にご利用者と一緒に参加したり、夏祭り、餅つき大会、バザーなどホームの行事に地域の方々を招待している。日常では近所のボランティアにより活け花、お茶会、ダンス、演奏会などで交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議やホームでのイベント時に町内会、民市委員、ご家族の相談や質問に応じている。また、イベントや日常時にもボランティアや外来者など利用者との会話時を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、町内会長、民生委員や地域に関連している方々とご家族、ご利用者本人を交えて運営推進会議を開催している。ホームでのイベントや日常のジ状況等の報告や話し合いし、受けた意見や要望などは事業所での会議で報告しサービス向上につながるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会時には市町村担当者に利用者の暮らしやニーズ、ケア対応を伝えたり、市で実施されている食中毒、認知症、災害の研修にも参加し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の職員全体で外部のセミナー以外にも、オリエンテーション、日ごろのミーティングやカンファレンス、内部研修で、身体拘束をしないケアの徹底をしている。ご利用者の自由な生活が支援出来るよう居室や玄関などは鍵はかけていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で全職員の虐待防止の意識を高めるために、虐待防止のマニュアルを作成しカンファレンスや内部研修に参加する場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の責任者は研修に参加し、制度について勉強している。活用し支援出来るよう関係者と話し合い出来る体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族の要望に出来る限りの誠意を持って答える。その上で相互の理解に努めている。契約書と重要事項説明書は見学時と入居時に必ず確認している。また、介護保険料の改定のあった時はその度お知らせし同意書をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を設けている他にも、運営推進会議など、来訪時(面会)、ホームからのお便りなど、いつでも意見や要望を言ってもらえるよう機会は作っている。出された意見などは会議で話し合い反映に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、研修の他に職員の個別の面談を定期的に設け、意見や提案を聞く機会を作っている。日頃のコミュニケーションにも心がけ親睦会も増やしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、給与や勤務日数、目標、やりがいなど話を聞ける場を持っている。資格取得、要望など支援制度や研修制度を設け、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量を高める事につながるよう、積極的に研修に参加している。また、研修発表が多く持てるよう、カンファレンスやミーティングでの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会や小規模連携に常に参加し、ネットワークづくりや勉強会に積極的に活動している。イベント、研修など多く設け、同業者との交流を深める機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心して頂ける事を最優先とし、早く対応できるように困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けることに時間をかけ信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り自宅を訪問し、面談を行っている。家族の思いや意向を受け止め、どんな意見も発言出来る雰囲気作りを心がけている。ケアプラン更新時には必ず確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に見極めるため、本人や家族と時間をかけて接している。事業所の機能、環境、利用者のニーズを考慮した上で必要なサービスを提供できるか判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の発言などで介護者側の気づきや教わるが多く、職員と利用者という関係以前に人と人との付き合いという観点を持ち、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望をしっかりと受け止め、一緒に考え、共に支え合っている。また、日々の様子が分かる様にお便りを送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後に希薄になりがちな関係性を考慮し、利用者と家族が接する機会や行事を提案している。また、家族にも協力を得て家族の行事へ行ける機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルなく関わられるよう、楽しく参加出来るエクリエーション、イベントを考え行っている。利用者の孤立が見られないようにいつでもスタッフが間に入り、見守りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事のお誘いはさせて頂いている。いつでも、利用者家族が来て頂けるよう、お便りを出したり、声をかけさせて頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や自己決定を大事に最優先と捉えている。ほとんど時間に関係なく、お茶、入浴、外出等は本人の希望に合わせて過ごして頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回、面接時は自宅へ訪問し、生活環境や生活歴を伺い、サービス内容に結びつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個性を大切に、合った暮らしを工夫出来るように、本人の生活リズムや身体機能、心理状態を総合的に把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員参加のカンファレンスでの意見交換や、日頃の関わりによるアセスメントと家族からの要望を重視し、介護計画を作成している。また、本人、家族にもしっかりと介護計画を見て頂きながら、最も適切と思われる介護計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の細かい内容も記録に残し職員全員が情報の共有やケアの工夫が活かせるように日誌に目を通してしている。また毎日のミーティング、カンファレンスでもケアの実践、結果、気づきなどの意見を出し合い、確認しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、ニーズが変化してもその度、家族や本人と相談した上で出来る限りの支援内容で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事参加や散歩、買い物に出かけたりして暮らしの中にも楽しみを見つけられるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と相談して往診医を決定している。1カ月に2回の定期往診があり、その他本人や家族の希望で皮膚科や歯科の往診も可能、受診内容、処方薬の説明もホームから説明させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の巡回日には必ず利用者の身体状態、食事や水分の摂取量の変化事項など報告している。利用者のバイタルチェックや、あれば医療処置、処置後の対応など指示も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り面会に行き、不安の軽減に努めている。病院関係者とは必ずその度、本人の情報(食事、睡眠、体調)を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについて、入所時に取り決め、その後も1年に1度の確認を書面で行っている。それ以外でも、家族の意向を出来る限り検討し、本人や家族と共に方針の決定、対応を続けていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部や内部の研修等に常勤から順番に参加し、カンファレンスなどで内容を報告し情報を共有している。社内の緊急時のマニュアルも作成し、職員全員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内で防災委員会を3カ月に1回開催し、災害対策の関連事項を話し合っている。事業所では防災委員を設け、災害時の避難、通報、消火訓練を行っている。年に1回地域家族会では消防署も交え防災訓練、AEDの講習会も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、援助時や誘導時の声かけなど配慮して対応に努めている。また、常に自己決定しやすい言葉かけを心かけ、信頼関係づくりや本人らしさも損なわないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重し、どんな時も本人が安心して自己決定して頂けるよう、ゆっくりと時間をかけて説明や会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の考えや行動を優先して過ごして頂くため、一人一人のペースを見守り、大切にしている。本人の希望に添って職員も一緒に行動を共に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来所し、本人の希望に添って整髪している。居室の担当を決め、日常や外出時の服装を本人と相談して、意向に添った身だしなみ、おしゃれの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは毎日利用と相談して決めたり、食材を買い物や庭で採れた野菜と一緒に準備したり、一人ひとりの好物を交互に作り、食事の楽しみを共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のミーティング、カンファレンスで個々の状態などの情報交換をし、職員は必ず毎日、毎食時の食事と水分の摂取量の記録をしている。工夫として個々に応じて好物や時間帯で摂取しやすくなるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、義歯の清掃やうがい、ブラッシングなど、本人に合わせた口腔ケアを一緒に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日のミーティング、カンファレンスで排泄パターンや習慣の把握に努め、配慮した声かけや安全な見守りと誘導で支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の希望も入れ、主治医と相談して便秘への改善に取り組んでいる。他にも本人と相談しながら運動や飲食物の摂取への工夫と働きかけに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前は必ずバイタルチェックと本人の意思を聞き確認してから一緒に準備を行う。脱衣、移動など介助が必要な時は十分に配慮し安全に安心して入浴が出来るよう職員は心がけ、楽しい話題作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望でいつでも自由に休憩をしたり眠れるように居室内やベッドを清掃し、整えている。安楽を考え、居室の温度調整、敷、掛シーツの清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は必ず毎日定期に服薬の確認をしている。用法、用量については主治医に必ず確認し、症状の変化時には記録と報告の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活状況や会話から、本人の喜び事、楽しみ事などを見出し、イベントや年間行事に取り入れ、計画や実行につなげている。時には隣の小規模や他のフロアのレクリエーションに参加して頂くこともある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って外食、買い物、散歩など職員は戸外に出かけられるよう支援している。また、家族と相談しながら予定を計画し支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し、希望者には家族の協力のもと所持している。また、自由に買い物もできるよう定期で近所の大型スーパーに出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って日時の制限なく電話や手紙のやりとりを出来るよう、家族や知人に相談しながら協力を得ている。自身の携帯電話も持って自由に家族へ連絡している利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居心地良く過ごせるよう、共用の空間は清掃している。安全に自由に移動できるよう動線を作り、穏やかな音楽をかけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にも窓際やベランダに椅子やテーブル、ソファなどを設置し一人でも複数でもくつろぎお茶を飲める場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っている馴染みの家具や道具を本人の希望通りに居室に設置し、本人が安心して居心地良く使い、過ごせるよう、家族と一緒に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安心して安全に移動できるよう、廊下やトイレ、玄関などに手すりや足元ランプをつけている。窮屈な感覚にならないよう透明なドアをつけ、先が見渡せる適度な空間も作っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能ホーム
ゆりの花 南武

作成日

平成26年12月16日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者様のご家族との信頼関係をより深めていく	ホームのレクリエーション、イベントの他にも、研修会や親睦会を設け参加して頂く。	ご家族の希望する研修や家族会の内容を聞き、信頼関係を深める時間を増やす。	1年
2		災害、防災に対する意欲や活気を高める	地域の他にも周辺、エリア内の施設と交流を深めていく	防災マップ作成。研修会など積極的に他施設を把握し交流を持つ。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。